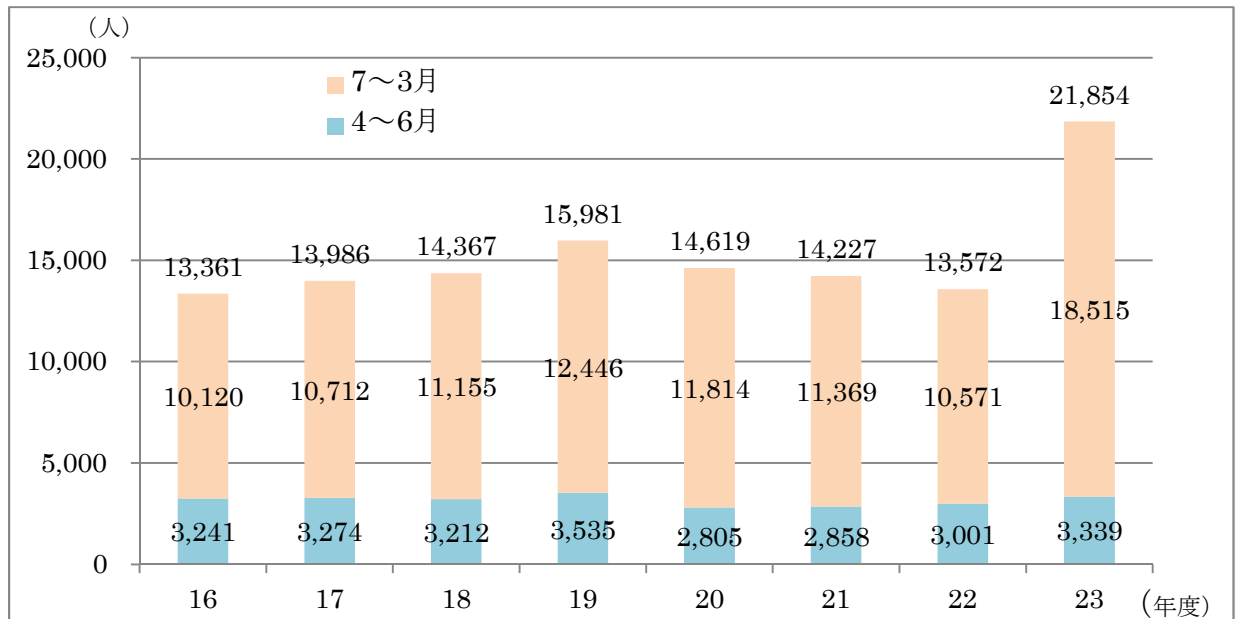


平成 24 年 11 月
小 笠 原 村

観光の動向について

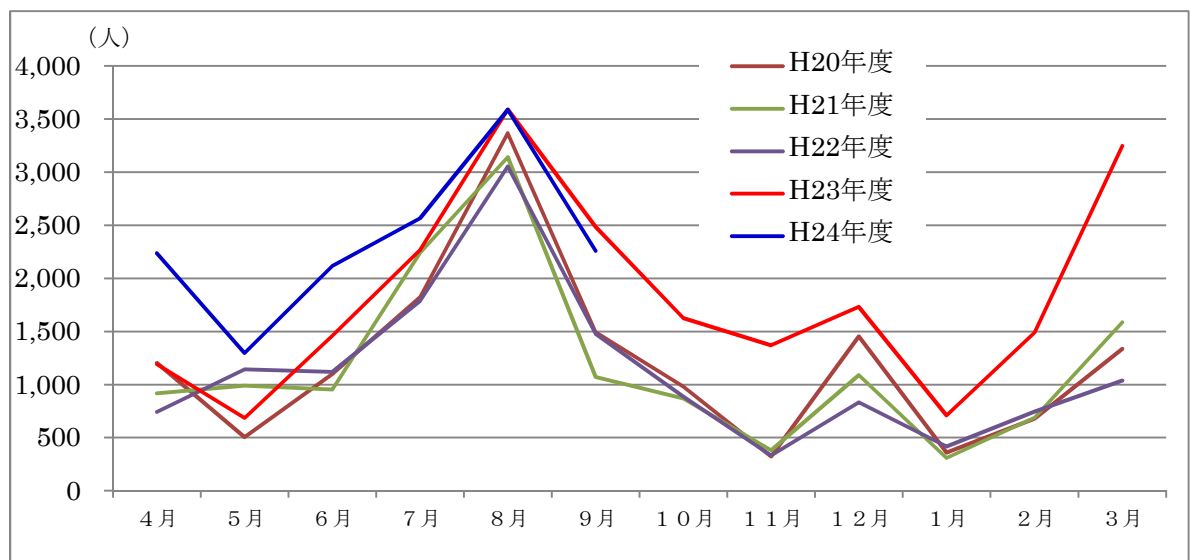
1. 観光客数の動向

(1) おがさわら丸観光客数の動向（年度別）



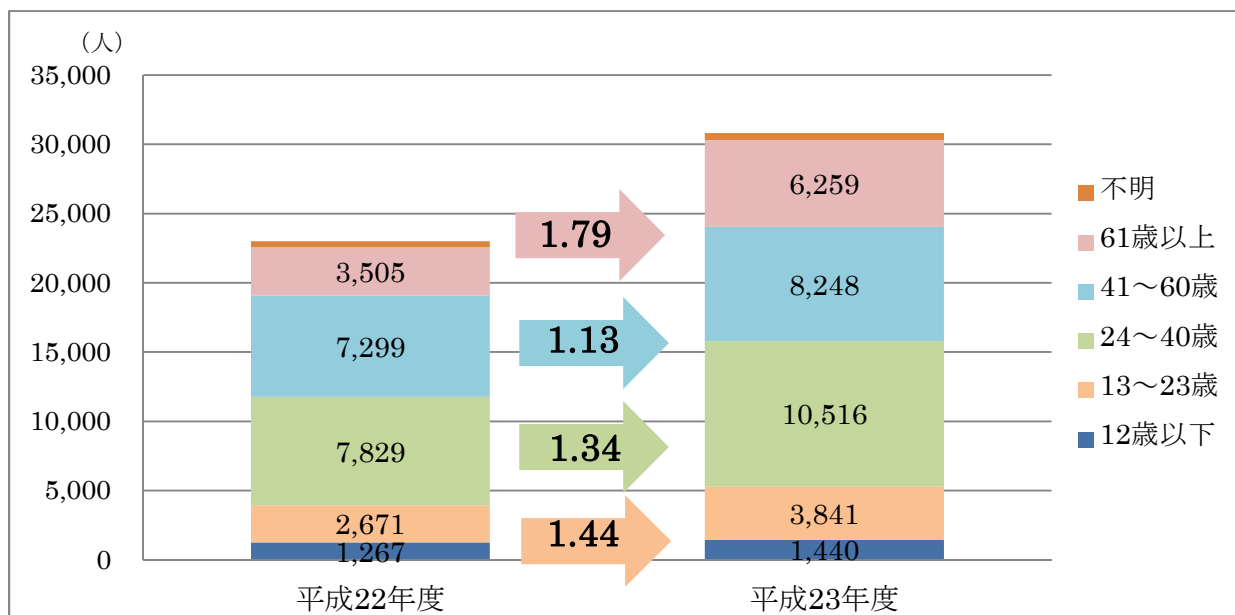
- 平成 23 年度は対前年度比で 1.61 倍に観光客は増えた。世界遺産登録後の 7 月から比較すると 1.75 倍。

(2) おがさわら丸月別観光客数の動向



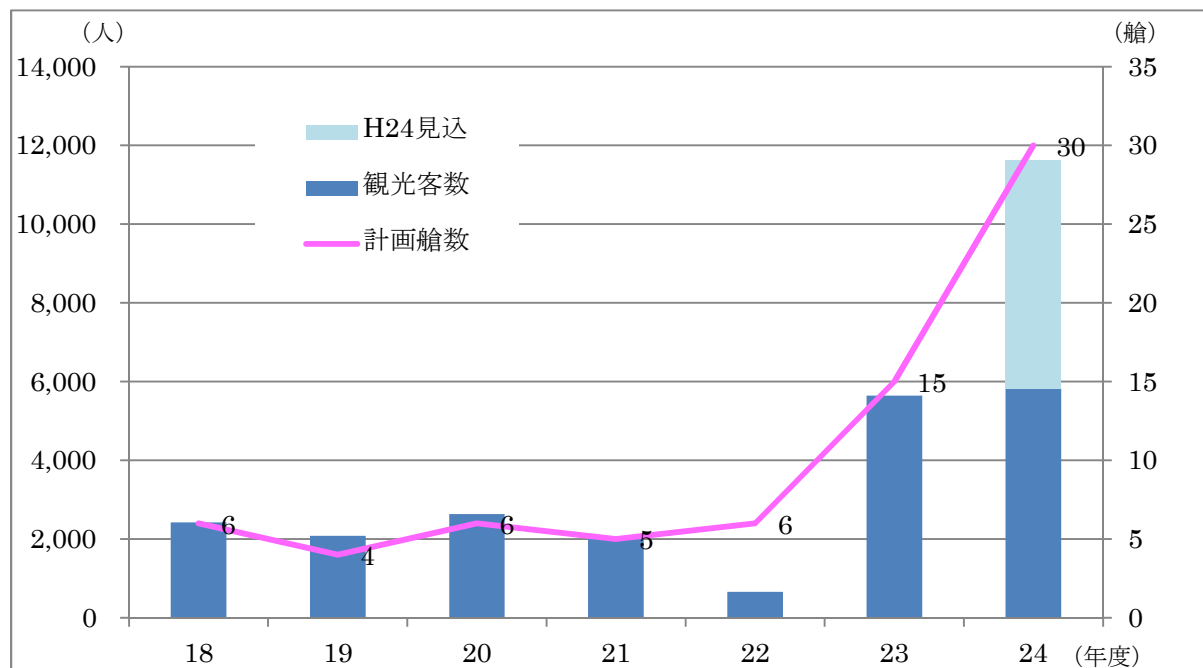
- 平成 24 年 3 月は夏のピーク時並みの観光客数であった。
- 平成 24 年度も閑散期の高止まりが続いている。

(3) 年齢層別乗船客数（仕事・島民を含む）の動向



- 世界自然遺産登録後、各年代で増加傾向にある中、61歳以上の観光客の増加率が約1.8倍と最も大きい。

(4) 観光船（クルーズ船）の寄港動向



- 観光船についても、世界遺産登録後の寄港頻度の増加が顕著で、平成24年度は30船の寄港予定があり、観光船による来島客数は1万人を超える見込み。
- 平成22年度は6船の計画があったが、うち4船がシケや東日本大震災の影響もあり入港不可やキャンセルとなった。
- なお、観光船の乗客は島内ツアーの内容から自然環境へのインパクトは少ない。

2. 満足度調査結果

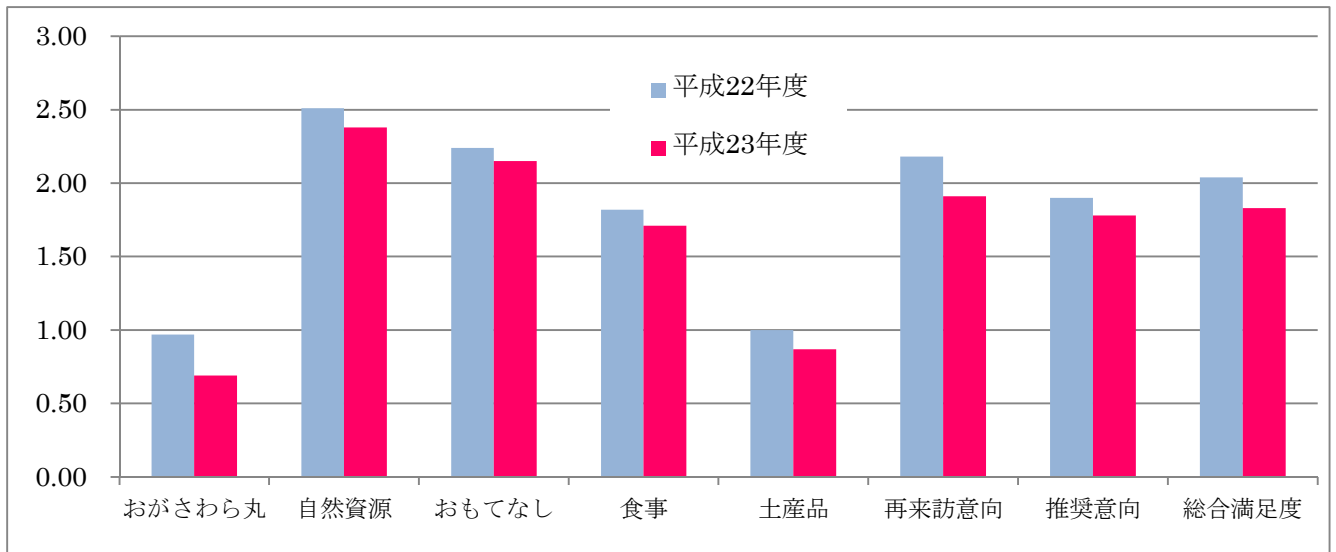
小笠原村では観光客の約1割を対象に満足度調査を継続しており、その結果は以下のとおり。

※調査方法

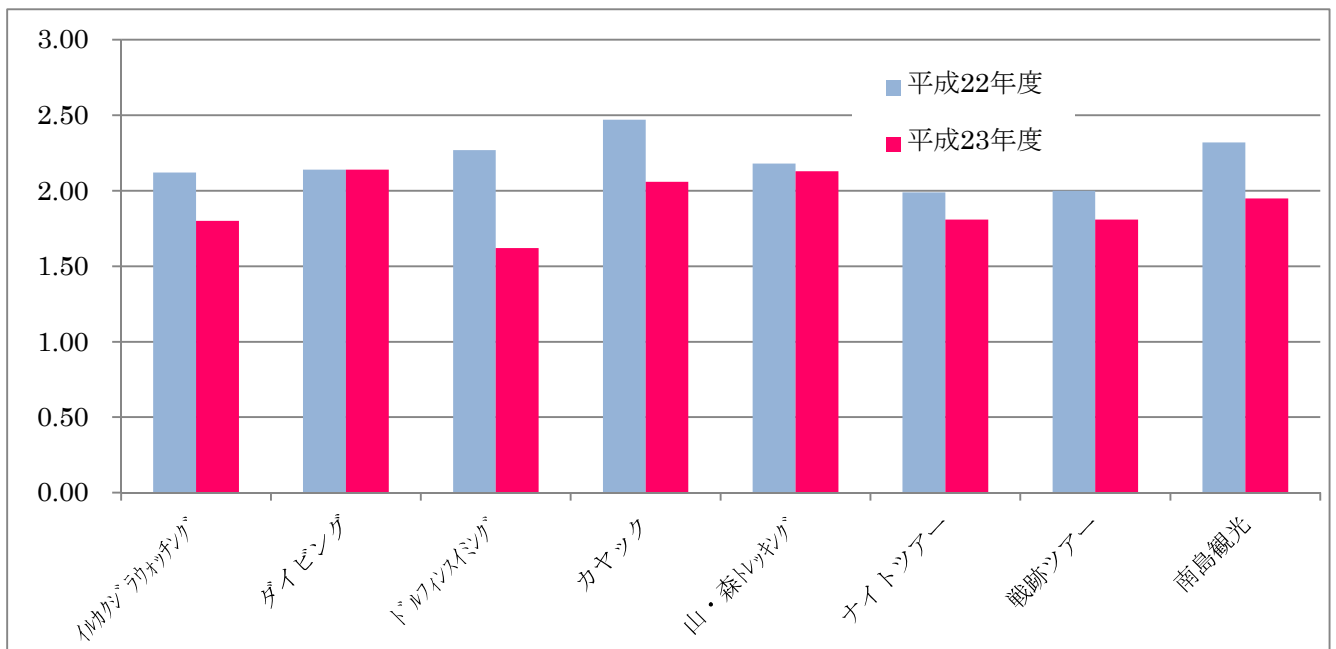
非常に満足	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	非常に不満
3点	2点	1点	0点	△1点	△2点	△3点

上記の加重平均値を算出

(1) 主要項目満足度

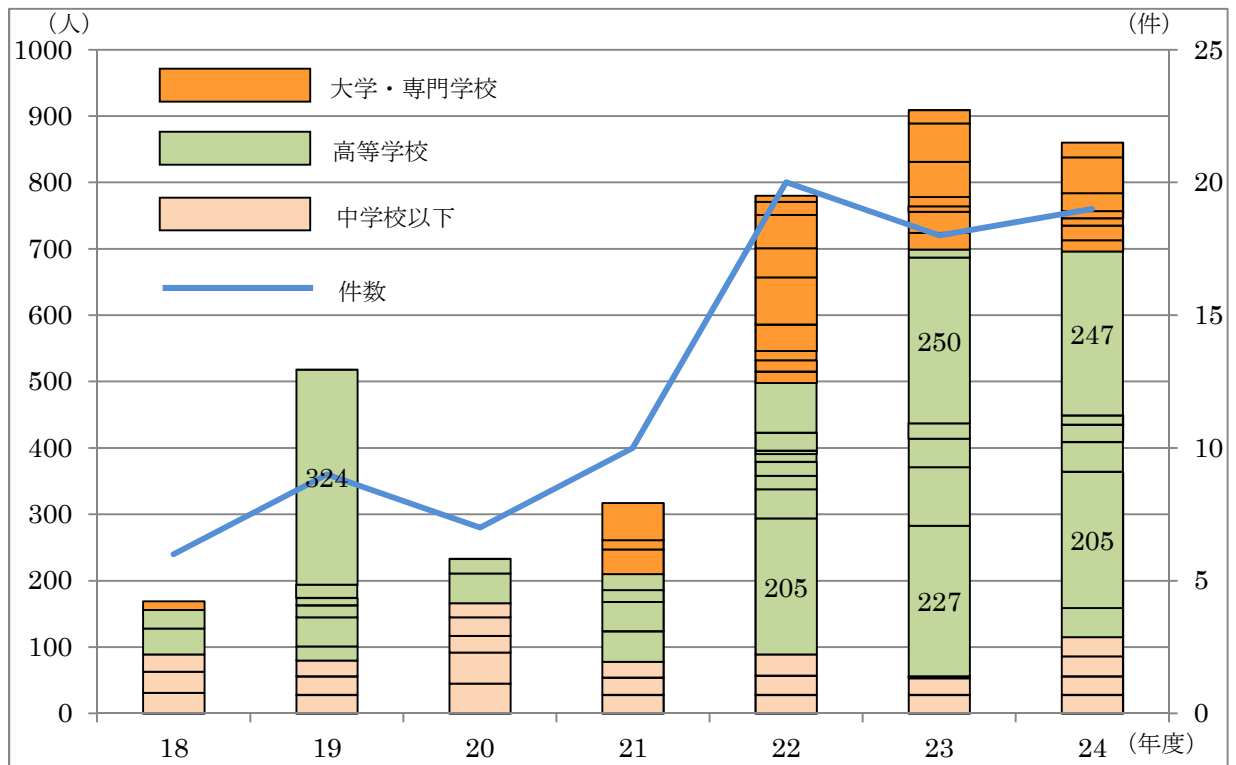


(2) ツアー満足度



➤ 満足度は総じて高いが、平成22年度から平成23年度で満足度は低下傾向である。ただし、この結果は単にサービスの低下だけに原因があるのではなく、世界遺産登録後の客層の変化も大きな要因の一つであると考えている。

3. 教育旅行の動向



- 教育旅行については、件数・来島学生数ともに増加傾向にある。
- 平成23、24年度は200人を超える大人数の修学旅行が2件実施（見込み含む）された。
- 最近は大学のゼミや専門学校等の少人数の教育旅行が増加傾向にある。

4. 航路（おがさわら丸）の改善状況

(1) 2等船室の定員減及び寝具の改善

船内の居住性向上を図るため、平成24年6月より2等船室の定員を810席から543席に削減。その結果、旅客定員は1,036名から769名に変更された。

	変更前	変更後
2等	810名	543名
指定	226名	226名
合計	1,036名	769名

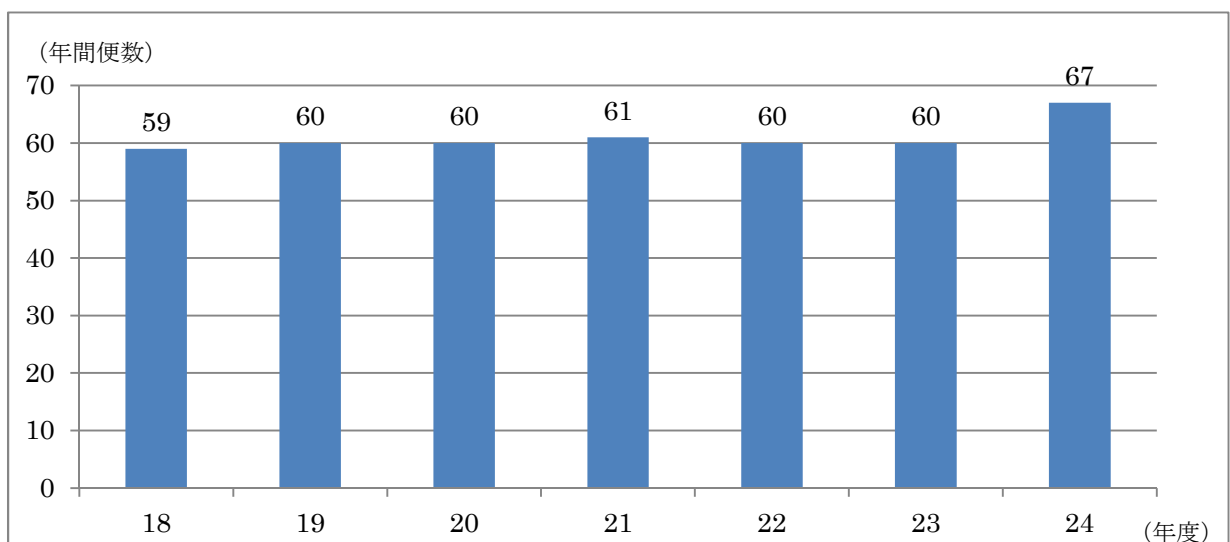
また寝具を敷きはマットレスに、掛けは掛け布に変更。



(2) 運航便数の増加

平成24年3月が夏のピーク並みの観光客数であったことから、平成25年3月は運航便数を増加。平成25年の夏についても着発便を増便予定。

平成24年3月	平成25年3月
5便（父島3泊便）	0.5便（父島3泊便） 8便（父島折り返し便）



5. 観光客の増加に対する対応

(1) エコツーリズムの推進

① 「小笠原エコツーリズム推進全体構想」の策定

平成23年度よりエコツーリズム推進法に基づいた「小笠原エコツーリズム推進全体構想」を策定作業中である。

② 陸域ガイド制度の運用

平成24年度から陸域ガイド制度の運用が開始される。平成23年度に実施された講習を受講し、保険等の各種要件を満たし、平成24年4月から陸域ガイドとして登録されたガイドの数は、父島13名、母島3名の総勢16名。

今年度も陸域ガイド講習を実施しており、受講者が17名。

③ 各種ルールの見直し

エコツーリズム協議会ルール・ガイド部会において、モニタリングの結果等から各種ルールにある規定の数値の見直しや改訂を検討する。



(2) 環境許容量の検討

① 目標人口や入込客数の再検証

観光客の増大とともに、人口も増加傾向にある中で、第4次小笠原村総合計画（平成26年度～）の策定等にあたっては、インフラ能力などの様々な環境容量を検討した上で、島のキャパシティを念頭に置いた目標人口や入込客数の検証を行っていく。